

特別賞



小幡剛也

設計者

小幡剛也 ■大阪府建築士会、(株)竹中工務店 大阪本店 設計部

共同設計者

須賀定邦 ■大阪府建築士会 (株)竹中工務店 大阪本店 設計部

中西正佳 ■大阪府建築士会 (株)竹中工務店 大阪本店 設計部

博物館

兵庫県神戸市中央区

竹中大工道具館新館



須賀定邦



中西正佳

構造・階数

鉄骨造、鉄筋コンクリート造
地上1階、地下2階建て

敷地面積

2744.30㎡

建築面積

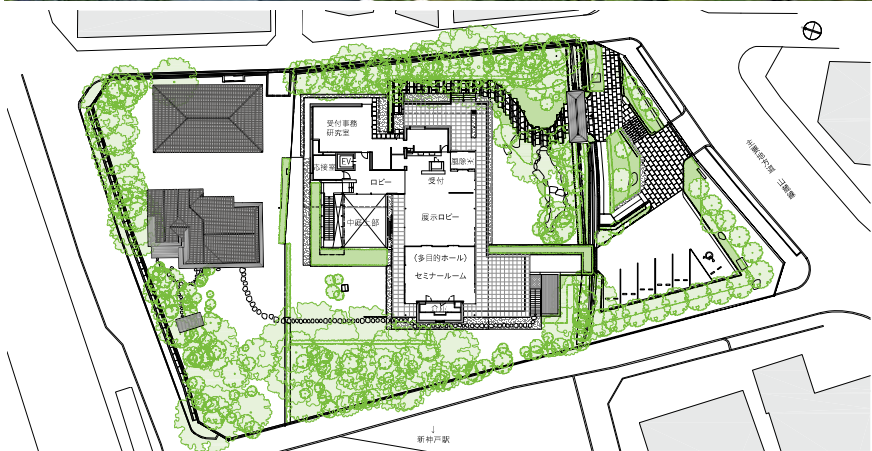
538.97㎡

延床面積

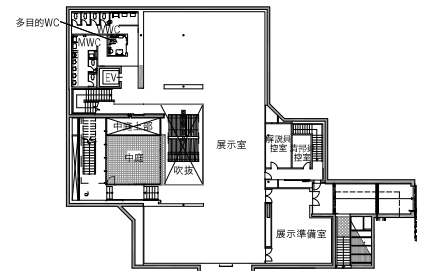
1884.05㎡

竣工

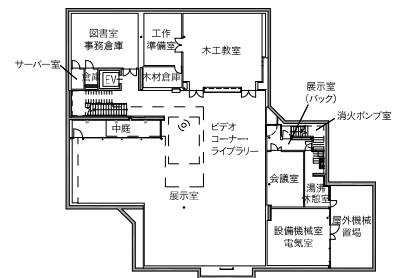
平成26年4月30日



配置図兼1階平面図



地下1階平面図



地下2階平面図

選評

「ザハ・ハディド氏に教えてやれば良かったのに」の頂部で低く合接するダブルアーチ構造が、外にはこれ見よがしに非ず、内の細密な天井格子に透けて見える趣向第一の現代建築である。

ダブルアーチは合接されることにより建築の高さが抑えられ、それを支える200mの鉄柱によって天空に瓦屋根を浮かせ、同時に1階の展示スペースと六甲山に連続する自然を内部に取り込む優れた解答になっている。

建築機能の大半が地下に埋め込まれている現代風の全体であるが、それも地上の屋根高を押える意匠上の考えと連動して

いるので、じつに自然である。

各所に点在させた現代の職人たちの技も良いけれど、何よりも本来のこの建築の要でもある唐招提寺の木組みをはじめとする展示物の内容、つまりは質量が良い。名門とは言え日本の一建築会社が可能な限りの表現を、しかもバランスよく実現したと言えるだろう。

作庭技術、数寄屋伝統建築の保存を含めてこの博物館にはこれからの日本建築の進むべき方向がよく示されていると考えた。その意味では、企業自体の存在の意味をも的確に表現している。

(石山修武)



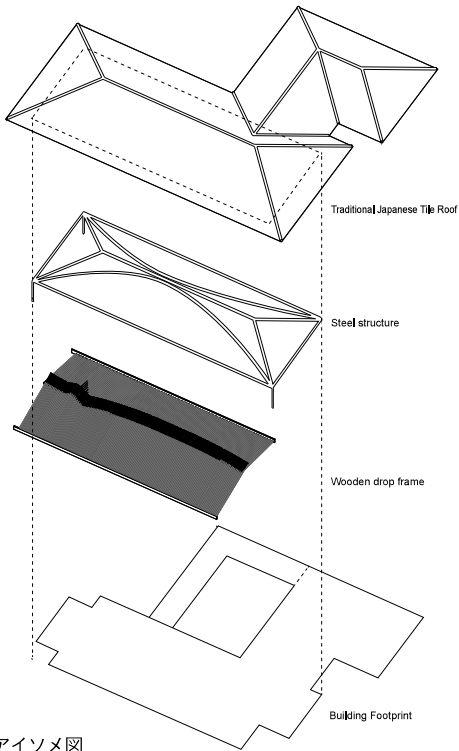
B



C



D



アイソメ図



E

- A 六甲山を望み、樹木を可能な限り残した敷地に、おおらかな淡路のいぶし瓦のむくり屋根を架けることで、人と自然をやわらかく繋いでいる
 - B 天然の無垢杉材を使用した船底天井。木組みの技を用いてすっきりとした温かみのある空間
 - C 建物の骨格をつくるのは存在感を消した鉄骨材。南北面を開くため、現在の解析技術を駆使し、アーチ構造を採用
 - D 北面と南面が構造的にも完全に解放され、南北の緑と人を繋ぐ
 - E 地上階から地下展示空間へといざなう階段。一枚の無垢のホワイトオークからくり貫いて一段、一段の段板をつくっている
- 写真撮影…古川泰造